



## 信念をもって一歩一歩前進



卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、大学院を修了される皆さん、専攻科を修了される皆さん、修了おめでとうございます。教職員、在学生を代表しまして、心からお祝い申し上げます。

卒業生の皆さん、本学に入学してから四年間、大きく成長されたと思います。在学中、学修はもちろんのこと、サークル活動、ボランティア活動などに精一杯励まれました。その結果、多くの人が国家資格や教員免許状、専門分野の資格を取得されました。このような成果の背景には、並々ならぬ努力があり、身に付けられた精神力は、将来必ず役に立つと確信いたします。

また、卒業生の皆さん、今日があるのは、保証人の方々の精神的そして経済的な支えがあつてのことであり、地域社会の多くの方々の深いご理解の中で、先輩や学友たちとの深い交わり、先生方の熱心な指導のお陰で、皆さんの豊かな人間性が培われました。皆さんは、このことをしつかりと肝に銘じ、感謝の気持ちを新たにしていただきたいと思います。

さて、皆さんは、今まさに社会人として社会という大海原に一步を踏み出そうとしています。それは、家族や大学から守られた学生という立場から、自ら道を切り開いて社会の一員として生きてい

くための第一歩です。また、これは人生の中で大きな節目のときでもあります。卒業生の皆さんのはとんどが、就職されると思います。就職するということは、社会の一員となることですが、今まで置かれていた環境が大きく変わり、それに対応する必要があります。これは、自身を見つめ直すよい機会です。学生時代に築いてきたことを生かし、自分を再認識して、自信をもつて新しい一步を踏み出してくださいたいと思います。

一昨年から続いている新型コロナウイルスの感染防止のために、対面授業や課外活動が制限され、不自由な学生生活を送られたことだと思います。まさに、コロナ禍と言われる状況が続き、いつ終息するかわかりません。さらに、最近の数年間は、他にも気候変動による台風や豪雨、地震の自然災害、国際情勢の変化など、今まで予想できなかつたことが次々に起きています。また、SDGsという持続可能な開発目標について、地球規模で様々な社会問題を解決しようとする試みがあります。人ごとではなく、皆さん自身の問題として社会の情勢にも関心を持つていただきたいと思います。

皆さんも、社会に出ると、大学で学んだ理想からかけ離れた状況に遭遇する事例が多くあり、臨機応変に対応する

とが求められます。新しい問題を解決すること、それは大変なことですが、信念をもつて粘り強く取り組んでください。そして、大事なことは良い人間関係を作ることです。組織の中で仕事をするということは、信頼関係を作り、決められたルールの中で共同作業をすることにほかなりません。このように皆さんのが歩く道は、平坦な道だけではないと思います。険しい坂道があり、大きな壁が立ちはだかるかもしれません。大学で学んだことを基礎にして、常に新しい知識を吸収し、的確な判断力をもつて、そのときの課題に対応できるよう精進していただきたいと思います。そして、目標に向かつて「一步一歩」自分自身のやり方で自信をもつて前進してください。

最後に、皆さん的新しい人生の門出に、健康に留意され、福山平成大学の卒業生であることに誇りをもつて社会のリーダーとしてご活躍されますよう祈念します。式辞といたします。

令和四年三月二十一日

福山平成大学  
学長 坪井 始



## 「実社会に羽ばたいていく皆さんへ」

さて、卒業生・修了生の皆さんは、今から2年余り前の令和2年1月に日本国内での新型コロナウイルス感染症の患者が確認され、その後の感染拡大に伴う様々な制約にも忍耐強く、的確に対応いただき、それぞれの目標に向かって日々精進され、明日より実社会へと羽ばたいていかれます。が、近年の社会では、新型コロナウイルスの感染拡大によって「新しい日常」の在り方が模索されるなかで、デジタル技術の重要性が改めて認識されています。この動向について特筆されるべきこととして、I C Tの活用により業務の効率化を図るという目的を超えて、ビジネスモデルや組織を変革し、自らの競争力を高めようとするDX（デジタル・トランスフォーメーション）が今後の潮流になると予想されています。つまり、これから社会においては、デジタル技術を駆使すると同時に、新たな価値を創造するための知恵や発想力が強く求められているのです。

新型コロナウイルス感染症は、新しい生活様式や社会のデジタル化などの新たな課題をもたらしました。一方、日本国内においては、人口減少による生産年齢人口の減少問題と地域間格差の拡大、地域の弱体化等に起因する医療提供体制の確立問題、高齢化の進展と人生100年時代の到来等による社会構造・産業構造の変化、気候変動がもたらす予想外の災害の発生など、様々な問題が山積し続けています。さらに、世界に目を向けると、国家・民族間の紛争等の諸問題の解決に向けた取り組みや新たなパンデミックの到来への備えの他にも、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させるカーボンニュートラル社会」の実現をはじめとする持続可能な開発目標（SDGs）の達成が地球規模で求められています。従つて、私たちはこれらの国内外の問題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの問題の解決につなげ、持続可能な社会を創造していくことが求められています。

さて、卒業生・修了生の皆さんは、これまで培われた知識・技術・取得された資格等、またデジタル技術も活用されながら、種々の諸課題を自分のキャリアとの関連の中で取り組まれ、ローカルにもグローバルにも活躍していただければと期待しています。

ところで、予測不可能な時代の到来を迎えている今、持続可能な社会の実現のために、多様性を秘めたアクティブな人材として活躍することが社会から求められています。今後の輝かしい人生を過ごすためにも、皆さんのが大学で身に付けられた「自分で情報を収集して、自分で考える」というアクトイブ・ラーニングの姿勢を継続していくことが、これからも重要であります。皆さん、これまでの間、知識・技術を培われ、資格等も取得されたことと想います。ですが、卒業して社会に出ると、いかなる場面にでも利用できるような画一的な「知識」などは存在せず、皆さん自身で情報収集を行い、その状況に応じて判断し、未来を切り拓いていく「知恵」の力が必要となるのです。また、キャリアは偶然の出来事の積み重ねの影響を大きく受けながら形成されるものであり、偶然の出来事を積極的な姿勢で最大限活用していくことが、自らのキャリアの発展に繋がり得るとする、米国の研究者が提唱するキャリア理論があります。皆さんにはコロナ禍による予測不可能な様々な困難と制約に直面されました。が、それと同時に数々の偶然の出来事を経験されたことと思いま

す。そして、日々努力を重ねられ、本日無事に卒業の日を迎えるました。その経験をどうか今後のキャリアの糧にしていただき、卒業生の皆さんが輝かしい未来の模で求められています。従つて、私たちはこれらの国内外の問題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの問題の解決につなげ、持続可能な社会を創造していくことが求められています。

さて、卒業生・修了生の皆さんは、これまで培われた知識・技術・取得された資格等、またデジタル技術も活用されながら、種々の諸課題を自分のキャリアとの関連の中で取り組まれ、ローカルにもグローバルにも活躍していただければと期待しています。

ところで、予測不可能な時代の到来を迎えている今、持続可能な社会の実現のために、多様性を秘めたアクティブな人材として活躍することが社会から求められています。今後の輝かしい人生を過ごすためにも、皆さんのが大学で身に付けられた「自分で情報を収集して、自分で考える」というアクトイブ・ラーニングの姿勢を継続していくことが、これからも重要であります。皆さん、これまでの間、知識・技術を培われ、資格等も取得されたことと想います。ですが、卒業して社会に出ると、いかなる場面にでも利用できるよう画一的な「知識」などは存在せず、皆さん自身で情報収集を行い、その状況に応じて判断し、未来を切り拓いていく「知恵」の力が必要となるのです。また、キャリアは偶然の出来事の積み重ねの影響を大きく受けながら形成されるものであり、偶然の出来事を積極的な姿勢で最大限活用していくことが、自らのキャリアの発展に繋がり得るとする、米国の研究者が提唱するキャリア理論があります。皆さんにはコロナ禍による予測不可能な様々な困難と制約に直面されました。が、それと同時に数々の偶然の出来事を経験されたことと思いま

す。そして、日々努力を重ねられ、本日無事に卒業の日を迎えるました。その経験をどうか今後のキャリアの糧にしていただき、卒業生の皆さんが輝かしい未来の模で求められています。従つて、私たちはこれらの国内外の問題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの問題の解決につなげ、持続可能な社会を創造していくことが求められています。

さて、卒業生・修了生の皆さんは、これまで培われた知識・技術・取得された資格等、またデジタル技術も活用されながら、種々の諸課題を自分のキャリアとの関連の中で取り組まれ、ローカルにもグローバルにも活躍していただければと期待しています。

ところで、予測不可能な時代の到来を迎えている今、持続可能な社会の実現のために、多様性を秘めたアクティブな人材として活躍することが社会から求められています。今後の輝かしい人生を過ごすためにも、皆さんのが大学で身に付けられた「自分で情報を収集して、自分で考える」というアクトイブ・ラーニングの姿勢を継続していくことが、これからも重要であります。皆さん、これまでの間、知識・技術を培われ、資格等も取得されたことと想います。ですが、卒業して社会に出ると、いかなる場面にでも利用できるよう画一的な「知識」などは存在せず、皆さん自身で情報収集を行い、その状況に応じて判断し、未来を切り拓いていく「知恵」の力が必要となるのです。また、キャリアは偶然の出来事の積み重ねの影響を大きく受けながら形成されるものであり、偶然の出来事を積極的な姿勢で最大限活用していくことが、自らのキャリアの発展に繋がり得るとする、米国の研究者が提唱するキャリア理論があります。皆さんにはコロナ禍による予測不可能な様々な困難と制約に直面されました。が、それと同時に数々の偶然の出来事を経験されたことと思いま

令和四年三月二十一日

学校法人

福山大学  
理事長 鈴木省三



## 福山平成大学 令和三年度学位記授与式 祝辞

卒業生・修了生の皆様、御卒業、誠におめでとうございます。皆様におかれましては、長期化する新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、大学生活では多くの困難があつたことと拝察いたします。こうした逆境を乗り越えて、晴れの日を迎えた皆様はもとより、支えてこられた御家族・保護者の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。また、これまで熱意と愛情を持って指導にあたられた学長をはじめ、諸先生方にも、深く敬意を表します。

さて、新型コロナは、市民生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼし、人々の意識や行動、価値観の変化をもたらしました。また、コロナ禍において、デジタル化の遅れが顕在化しました。これから社会は、デジタル化が進む中で、暮らしや働き方が大きく変化していくことが予想されます。

こうした中、卒業生・修了生の皆様は、人間性を尊重し、調和的な全人格陶冶を目指す全人教育を行うという福山平成大学の建学の精神に基づき、専門的な知識や技能のみならず、情報リテラシーや語学力、コミュニケーション能力など、様々な教養を身に付けられました。これまで高めてこられた総合的な人間力は、これから社会に出られたのち、必ず大きな力になることと想います。

福山平成大学におかれましては、地元福山の地域にねざした実践的な教育や少人数制の教育を発展さ

せ、「個の力」を育てる学びをいち早く整えられ、これまで多様な人材を輩出し、地域の社会経済だけでなく、我が国の発展にも大きく貢献してこられました。この度、御卒業される皆様も、地域の課題を解決できる人材として、また世界に貢献できる人材として御活躍いただけるものと確信しております。ここ福山で過ごされた日々に誇りと自信を持ち、皆様の夢の実現に向け、大いにチャレンジしていただくことを期待しております。

本年、福山の象徴として愛された福山城が築城400年という大きな節目を迎えました。福山市は、福山城と共に歩んできた歴史を市民全体の誇りとしております。皆様には社会に出られてからも、福山市との関わりを大切にしていただければ幸いです。夢を実現され、いつかまた、福山市のまちづくりに貢献していくだけることを切に願っております。

最後に、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げますとともに、福山平成大学の今後ますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和四年三月二十一日

福山市長 枝 広 直 幹



## 福山平成大学 令和三年度学位記授与式 祝辞

ご卒業誠におめでとうございます。卒業生の皆様方はもとより、ご家族をはじめ、先生方など関係者のお喜びもひとしおかと拝察し、心からお祝いを申しあげます。

さて、今日のコロナ禍により、世界中の人々は行動を制限され、社会、経済活動の面では、隅々にいたるまで行動様式の変容が余儀なくされています。特に皆様方にとっては、友人との交流や、意見を広めるための旅行など、学生時代ならではの活動に大きな制限が課せられた学生生活だったのではないかと、心を痛めておられます。健全な社会を維持、発展させていくためにも、一刻も早くコロナ禍が終息し、世界中の若者が自由に活動できる日が戻ってくることを願つてやみません。

そうした状況のなかにあつても、我々商工会議所では2大使命である「中小企業の活力強化」と「地域の活性化」を具現化するため、様々な活動を展開しております。中小企業の課題である、生産性向上に向けたデジタル化やAI・I・OTなどの技術革新への対応などを積極的に支援するとともに、経済を活性化するうえで欠かせない、幹線道路の整備や港湾機能強化などのインフラ整備促進に向けた要望活動も積極的に展開しており、コロナ禍の克服だけでなく、中小企業や地域の持続的な発展に全力で取り組んでおります。また、こうした活動を支え、成果をさらに発展させていくためには、当地域の中小企業に、専門的な知識だけ

でなく技能・コミュニケーション能力などを総合して発揮する人間力が備わった人材が、即戦力として必要と考えております。

福山平成大学におかれましては、平成6年の開学以来、地元企業と連携したインターネットや地域連携活動を通じ、座学だけでは得られない人間力や判断力の養成に注力され、地域の未来を担う優秀な人材を数多く産業界に送り出し、地域経済をしっかりと支えて頂いております。

皆様の諸先輩方は、当地域をはじめ各地の企業で立派に職務を果たされ、高い評価を受けておられます。先輩方が切り開いてこられた信頼と実績をもとに、皆様はそれぞれの立場で、立派な社会人として日本経済の発展や、地域の振興に貢献していくだけるものと確信いたしております。

終わりに、皆様が難局を乗り切る勇気と情熱を持ち、健康に十分留意され、素晴らしい活躍をされますようお祈り申しあげますとともに、貴大学の今後ますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和四年三月二十一日

福山商工会議所  
会頭 林 克士

## 新しい門出にあたつて

経営学部長 川久保 和雄



みなさんはこの2年間、コロナ禍という困難な状況を経験して、大学生生活の半分である3・4年生の2年間を、困難な状況の元で過ごすことになってしましました。心残りもあつたかも知れません。しかし、この新型コロナウイルスの感染状況もいずれ収束し、アフター・コロナ、ウイズ・コロナの時代に入ることはまちがいないと思います。これからは、社会に残された多くの課題を解決して修復していく必要があります。みなさんの若い力を発揮して、活躍されることを願っています。

また社会は今、SDG'sやカーボンニュートラルなどの環境問題への取り組み、Society5.0、AI、DX、量子技術など社会全体のデジタル化など、急速に変化しています。それを推進していくためにも、若いみなさんの柔軟な発想、純粋な感性、あふれる力が求められています。これからいろいろな困難に直面することも多いと思いますが、大学で身につけた力を活用して、正面から全力で取り組んで問題を解決していくください。みなさんの健闘をお祈りします。

みなさんは今、新しいスタートラインにいます。人生100年時代のこれから、長い人生を送るにあたって、希望に夢をふくらませて、いるのではないであります。スタートにあたって重要なことは、将来の目標・計画を持つておくことです。今から10年後、20年後、30年後に、自分がどういう人間に成りたいのか、どういつ人間に成るべきかを、この機会に十分考えてください。

今までは、家族、友人、先生という、比較的の環境が限定された均質的な人間集団の中で過ごしてきましたが、社会に出るとあらゆる世代の、考え方の異なる人たちと広く触れ合うことになります。周りを見回すと、きっと先輩や上司の人たちの中に、深く尊敬できる人が見つかるでしょう。そういう人たちを見つかるでしょう。そういう人たちを目標にして、将来の夢を達成しましょう。

私たちもみなさんのことを、これからも心から応援しています。みなさんも母校である福山平成大学のことを時々思い出して、応援していただければ幸いです。最後にみんなの夢を達成します。

今後のご健康、ご多幸を心からお祈りします。

## 令和3年度卒業生に贈る言葉

福祉健康学部長 永井 純子



皆さん、ご卒業おめでとうございます。福山平成大学での学生生活はいかがでしたか。4年間、いろんなことに積極的に取り組むことができました。福祉健康学部では、それぞれの学科における専門的な知識・技能・態度・思考力・判断力・表現力・人間力等の素養を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士(福祉学、こども学、健康スポーツ科学)の学位を授与しています。昨年から今年にかけては新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、学生の皆さんも教職員も本当に大変でした。でもよく頑張りましたね。ところで、Society5.0という言葉を知っていますか。内閣府によると、「Society5.0」とはサイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」とされています。

Society5.0、「人間中心の社会」は、狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿とされています。

人工知能(AI)や情報通信技術( ICT)の急速な進展とともに、あらゆる情報がデジタル化される時代になつて、も、すべては人間中心の社会のためであり、人間の価値や役割を見失つてはなりません。現代社会は地球温暖化や環境汚染に加えて、大国間での覇権争い激化の中で拡大する格差や分断にどう向き合つかなど、人類社会全体の将来に関する問題が山積しています。「何が良いのか、悪いのか」、人として正しい判断基準(クライテリア)を持ち、人々の幸せに貢献できる人になつて頂きたいと願います。益者三友(正直な友、誠実な友、博学な友)は自分にプラスになる、損者三友(媚び詭う人、不誠実な人、口先のうまい人は自分のマイナスになる)という諺があります。良い友達を大切にして下さい。

いかなる困難の中にもチャンスがあるはずです。いろんな人に助けてもらながで結構です。率先して状況を改善する行動を起こしましょう。また、教室を離れても学ぶことを続けて下さい。学ぶ意志や欲求を持ち続けて下さい。いつかきっと成功する日が来ると信じています。

最後に、一生懸命頑張ると恩苦しくなる時期があります。みんなはいつでも大学に来て下さい。私たち教員一同はい

つまでも皆さんの幸せを心から祈っています。

## ご卒業おめでとうございます

看護学部長 木宮 高代



晴れの門出を迎えた看護学部看護学科第12期生の皆さん、保証人の皆様に心からお祝い申し上げます。この2年間、未知の新型コロナウイルス感染症の拡大とうとう未曾有の事態に直面しました。そのなかで、第12期生の皆さん、自己の感染予防対策・健康管理の徹底をしながら実習、勉学に取り組む姿は、まさに看護専門職の姿を映していました。

現在の日本は世界に先駆け超高齢社会となり、多様化する保健・医療・福祉に対応できる看護専門職が求められています。そして、その活躍の場は拡大し、役割の推進などが行われています。本学看護学部の教育理念のもと、皆さんには看護専門職に必要とされる知識と技術の習得、そしてそれを常に継続し続ける自主的な学びを行ってきました。

今、ここに質の高い看護・保健医療を実践する看護専門職として、第1歩を踏み出すことになります。初めの一歩は小さいかも知れませんが、社会で仕事をしていく中で、本学での学びで身につけられたことを誇りに、情熱と努力で培った看護学の知識や看護技術を活かし、地域における医療・保健として福祉向上のために自分の力を信じ、未来の可能性に向け挑戦続けてください。社会人として生きていく中で、様々な試練や困難に直面することと思います。そのような時には、講義や演習、グループワーク、実習などでいつも励まし慰め合った仲間がいること、私たち教員が応援していること、そして思い出を共有できる大学がここにあることを思い出してください。これからは、自分自身で決めた道の中で、自他ともに認められる存在となり、それを維持していくために、これから生涯にわたって自分で学び、自分で解決していくこと、つまり自己学習、自己研鑽が継続的に求められます。時には戸惑うこともあると思いますが、そんな時こそ丁寧に時間をかけて取り組むことが、眞の看護専門職です。

社会人としての実生活もはじまります。他人に依存することなく、自分自身の考えに基づいて行動してもらいたいと思います。また、さまざまな人々との関わりでは、自分の精神や感情を制御していくことも忘れてはなりません。常に患者さんの心に寄り添い、共感することを忘れないでください。何年かを経たのちに、臨床場面でご活躍されている皆さんと出会えることを楽しみにしております。

また、助産学専攻科の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これからは助産師として大いに活躍され、看護専門職の発展に寄与されることを期待するとともに、ご多幸をお祈りいたします。医療のスペシャリストは、時代の技術の変遷が速く、少しでも勉強を怠ると取り残されてしまいます。ぜひ日々の変化に負けず、努力を毎日重ねて、社会の要望に応え世の中に貢献されることを期待しています。

# 大学生活を振り返って

私は福山市職員採用候補者試験に合格し、令和四年四月から保育士もしくは幼稚園教諭として働きます。これは、私がこども学科での学びを通して、夢見えていたことでした。

私が、こども学科に入学をしたのは、保育士資格／幼稚園教諭一種免許状／小学校教諭一種免許状／という三つの資格／免許が取得できるからです。一年次からこれららの資格／免許の取得を目指しながら、自身のキャリアを模索してきました。学年を経て、様々な保育領域や初等科目の授業を通して保育や初等教育の素晴らしさを先生方から学ぶにつれて、保育・幼児教育を志すべきか、それとも小学校教育に携わるべきか、迷うようになりました。そんな中、先生方が私の悩みを丁寧に聞いて下さり、将来へと導いて下さいました。その結果、私は福山市職員として保育士もしくは幼稚園教諭として働くことを第一志望とし、採用試験対策へと取り組みました。子ども学科棟にある「採用試験対策室」で毎日勉強していましたが、「コロナ禍での立ち入り制限時にはオンラインで友人たちと繋がり、励ましあいながら取り組みました。

そして、いよいよ採用試験を迎える一次試験はとても緊張しました。受験生も多く、専門教科への心配があつたので、自分で自分にブレッシャーをかけてしまいました。一次試験は小論文、面接、実技（弾き歌いと素話）がありました。面接と実技は先生方が熱心に個別指導をしてくださったので、落ち着いて臨むことができました。合格発表を見たときは、嬉しさがこみ上げてきました。報告した両親が喜んでくれる姿を見て、こども学科で夢を叶えた自分自身を誇りに思うことができました。今はこども学科で過ごした充実した四年間の学生生活に、感謝の気持ちでいっぱいです。

## 大学生活を振り返つて



私は福山市職員採用候  
補者試験に合格し、令和四  
年四月から保育士もしくは  
幼稚園教諭として働きま  
す。これは、私がこども学科  
での学びを通して、夢見て

私はこの四年間で、飛込競技や資格取得に向けての勉強など様々な新しいことに挑戦しました。その中でも、中学校の保健体育の教員になることを決意し、教育実習に取り組みました。『口ナ禍の教育実習で不安がありました』が、実習に行く前に「どんなことも完璧にこなそう」と思わなくていいから、今できることを「精一杯やればいい」と言う言葉をいただきました。そこで実習前半は、「今できることを精一杯やろう!」という気持ちを強く持つて実習に臨みました。しかし、授業の準備や実際に授業をしてみると、本当に自分が今できることを精一杯やつたのだろうか、どうすればもっと良い授業ができるのだろうかと考える日々でした。そのような中で、実習担当の先生にアドバイスをいただきながら、簡単なことではなかつたけれど試行錯誤を繰り返し、授業づくりや授業をしていき、本当に少しずつではありました。が生徒にここがわかつてほしいという部分が伝わるようになりました。悩み、考え、工夫して、という教育実習を通して、日々学び、成長し、達成感を味わうことのできる仕事は教員にしかないと思い、教員になりたいという気持ちを改めて強く持つことができました。また、このような経験をしたことで、目の前の大壁に向き合う心と、乗り越える力を持つることができました。

私は、大学四年間で様々なことに挑戦することで、多くの学びと経験を得ることができました。これからも挑戦し続け、自分自身の成長に繋げていきます。

最後になりましたが、手厚くご指導してくださった先生方や、お世話をなつた方々、またこれまで支えてくれた両親がいたからこそ今の自分があります。この場をお借りして感謝申し上げます。これから社会人として頑張ります。



四年前の春から瞬く間に時が過ぎ、今日卒業の日を迎えます。

私はこの四年間で、飛込競技や資格取得に向けて勉強など様々な新しい



# 四年間のメッセージ

# 四年間を振り返りて 経営学科

経営学科  
長谷川 桃子

## 四年間で学んだこと

## 大学生活での思い出



私は、何か人の役に立つ仕事を就きたいと思い、福山平成大学の福祉学科に入学しました。

看護学科

詩口以



私は将来看護師になるために福山平成大学に入学しました。瞬く間に日が過ぎ、卒業を迎えるようとしています。今では、もっと看護を深く学ぶことを目標に日々気を遣う

を通して様々な友人を持つことが出来ました。生方も親しみやすい方が多く、いつも様々な相談に乗っていただきました。このように、友人や先生の方と恵まれた環境の中で充実した四年間を過ごすことができとても感謝しています。ありがとうございました。

四年間の学生生活で印象に残っているのは、御幸祭での模擬店、そして地元企業とのコラボ商品開発です。御幸祭での出店ではフランクフルトを販売しました。来客数の予測、予算の立案、販売数の計画など初めての経験で戸惑いばかりでした。同時にコラボ商品開発にも参加し、商品の内容から販売までをメンバーで企画しました。これらは経験から、皆で協力して最後まで一つのことをやり遂げること・達成感・企画力を身につけることが出来ました。これらの力は社会に出ても重要な力だと思うので、さらに磨きをかけていきたいと思っています。

また、学業に関しては、欠席をしないこと・課題は必ず期日までにやることを徹底しました。基礎をしつかり固めて強みにすることが出来たので頑張つてきてよかったです。そして、メリハリをはつきりつけて行動していましたので、就職活動も早めに区切りをつけることができました。後輩の皆さんには、自分の武器を身につけて、コロナに負けず、就職活動を頑張つて欲しいと思います。

大学での学びは、これから的人生の支えになると思っています。四月から社会人として気持ちを切り替えて精一杯頑張つていきたいと思います。四年間ありがとうございました。

コミュニケーションを取ることや認知症サポート養成講座での認知症の専門知識を学ばせてもらいました。三年生では、生活介護支援事業所で社会福祉士実習を行いました。利用者に対する支援の際、カリキュラムの活動で利用者と関わることが多くあり、その中で、強度行動障害や自閉症スペクトラム、てんかんなど様々な障害をもつた方がおられ、そのような利用者と接することや支援することに不安がありました。しかし、専門職の方や実習指導の先生が優しくご指導してくださいましたおかげで、実習を無事終えることができました。また、利用者に対する直接的支援だけではなく社会福祉士の業務として、模擬面談を実施しました。模擬面談では、施設での現状から目標・支援内容を説明しました。施設での状況を知つてもらい、家族の意見も取り入れ個別支援計画を作成しました。作成する上で、施設での生活だけではなく家庭での生活を含めた一日を知る必要があるので、家族を交えた面談は重要だと学びました。

四年生では、冬に国家試験に臨みました。コロナ禍で大学へ行けないことも多く思うように試験対策が進まず、中々模試でも点数が伸びず落ち込むこともあります。それでも、先生方からのサポートや仲間と教え合った。それでも、先生方からのサポートや仲間と教え合った。ながら勉強することで乗り越えることができ、本番では自信をもつて試験に挑むことができました。

最後になりますが、これまで支えてくださった先生方、友人、家族に感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、この四年間の経験を活かし、利用者様一人ひとりのニーズに寄り添える専門職を目指していきます。

入学当初は、初めて出会いう同級生や新しい環境に緊張の毎日でしたが、月日が経つにつれ順応でき、看護の講義や演習を行い勉学に励むことができました。看護学科での勉強は、看護の基本的な知識や技術の習得に加え、患者さんの個別性を踏まえた看護を行うことの重要性を学びました。新型コロナウィルス感染症拡大の影響で、三年次から対面授業は遠隔授業に切り替わり、自宅学習の機会が増えました。看護学の臨地実習もリモートや学内実習となり、不安や戸惑いも多くありました。そのような中、短い期間でしたが、病院の実習に行くことができました。私は看護師さんや先生方に指導を頂きながら患者さんと関わり、実習メンバーと一緒に琢磨して今まで学んだ知識や技術を活かし、看護過程の展開ができるよう努力しました。半年間の実習では、毎日慌ただしくときに躊躇落ち込むこともありました。先生方や実習メンバー、両親などのサポートがあり、乗り越えることができました。看護の現場では想定外のことも多く、時間を把握して優先順位を考え、実践することの大変さを改めて実感しました。

大学生活四年間では、多くの人と出会い、様々な経験ができました。今後は根拠に基づいた看護を展開していく様に、より深く看護を学んでいきたいです。

大学院では、大学での学びを活かして「新型コロナウィルス感染症に対する意識と世代別感染対策行動」についての研究に取り組みたいと思います。四年間本当にありがとうございました。



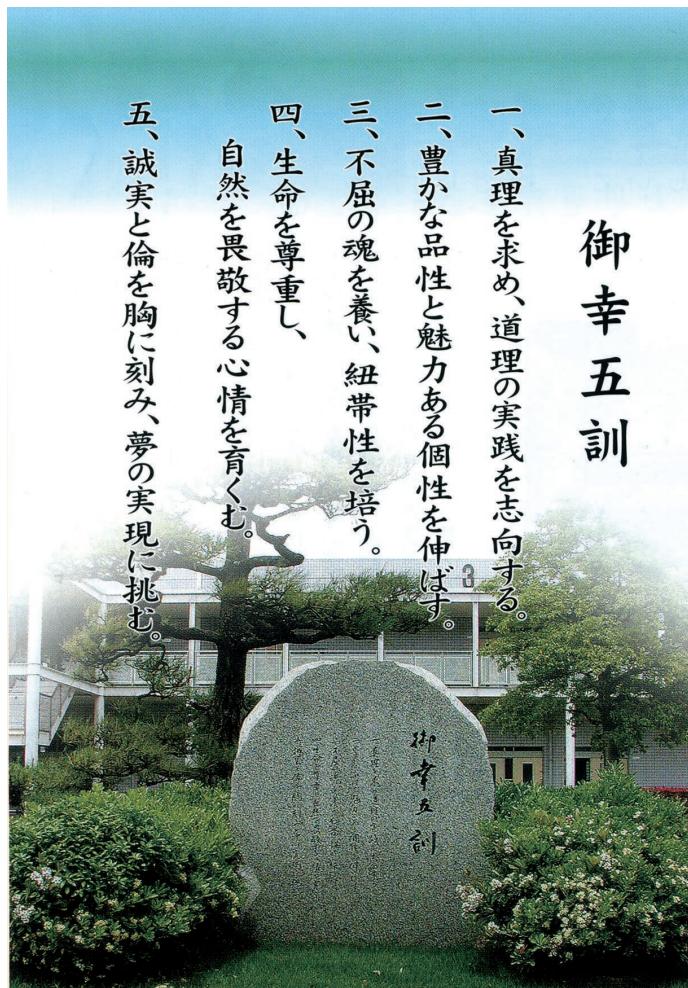
# 令和3年度 卒業者・修了者数

学 部	学 科	卒業者数
経 営 学 部	経 営 学 科	31名
福 祉 健 康 学 部	福 祉 学 科	17名
	こ ど も 学 科	44名
	健 康 ス ポ ー ツ 科 学 科	90名
看 護 学 部	看 護 学 科	77名
計		259名

研 究 科	専 攻	修了者数
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 研 究 科	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 専 攻	4名
看 護 学 研 究 科	看 護 学 専 攻	1名
計		5名

専 攻 科	修了者数
助 産 学 専 攻 科	10名

合 計	274名
-----	------



## 御幸五訓

一、真理を求め、道理の実践を志向する。  
 二、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす。  
 三、不屈の魂を養い、紐帶性を培う。  
 四、生命を尊重し、  
 自然を畏敬する心情を育ぐむ。  
 五、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む。

## 令和3年度 学生表彰者一覧

このたび、「学生表彰」として学長賞に次の5名の学生が選ばれ、令和3年度学位記授与式において、表彰されました。

学長賞は「学業部門」において、特に優秀な成績を修めた学生に授与されるものです。

### 学 長 賞

経営学科 長谷川 桃子

福祉学科 和田 隆佑

こども学科 末本 かずみ

健康スポーツ学科 猿渡 大夢

看護学科 津川 尚子

編 集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会) 福山平成大学

発 行 福山平成大学

発行日 2022年3月21日

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1

TEL 084-972-5001(代表) FAX 084-972-7771 <http://www.heisei-u.ac.jp/>